

「リハビリセット」について

～入所・短期入所・通所リハ・訪問リハを一体的に運用する～

介護保健施設カトレア

リハビリテーション室

石井 雄大

介護保険施設サルビア

リハビリテーション室

中村 敏郎

はじめに

- 今回は老健の持つ4つリハビリテーション機能をうまく利用し生活が安定している事例を紹介します。それにあたり、再度、リハセット、サービス循環・併用利用に関して説明し、今回の事例紹介を、その目線でもとらえる事が出来ればと思います。
- 今後皆様が施設サービスをプランニングするにあたり一助となれば幸いです。

老健の持つ4つのリハビリテーション機能

- ①入所（施設入所サービス）
- ②通所（在宅サービス）
- ③短期入所（在宅サービス）
- ④訪問（在宅サービス）

この4つのサービス毎でリハビリ専門職種が関わりを持っています。

4つのリハ機能の大まかな目的

- ①入所（在宅復帰へ向けた関わり）
- ②通所（在宅生活の安定と自立支援）
- ③短期入所（レスパイト・自立支援）
- ④訪問（在宅生活の安定と生活範囲の拡大
応用動作・役割の獲得）

それぞれの視点で関わる事で効率的な目標達成に繋がりがやすい。問題点の分析も多角的になる。

英世会老健の持つリハ資源による「在宅療養継続機能」

マネB・生活行為向上リハ・短期集中リハによる支援

○心身機能の低下
特にADL・IADL低下が課題
○生活行為の継続困難

入所

老健におけるリハビリ機能
○本人の生活能力の把握
○生活不適應の要素分析
○「できる活動」評価、介入に活かす

リピート利用

通所リハビリ⇔通所・訪問介護
○リハ会議(リハマネが重要)

訪問リハビリ(退所後3カ月)
○在宅での生活行為の指導

ショートステイ定期利用
○生活機能モニタリング

退所

○本人・家族・ケアマネ・居宅事業
本人の望む生活・支援方法の情報共有

退所前

家族への介護指導
本人の環境適應と調整
在宅ケアマネ・福祉用具
⇒在宅生活イメージ

入所中

セラピスト・CMによる在宅訪問指導
①入所前後訪問
生活環境の把握と今後の課題の確認
②ファミリーカンファレンス
③短期集中やリハ合宿による集中的なリハビリ

リハセット

リハセットを基盤に、通所介護・訪問介護等と連携し地域生活の継続支援に引き継ぐ

併用利用と単発利用における専門職の視点

- サービスを併用するという事は、単純にそのサービス場面での専門職の視点・関わりが増加するという事.
- 各サービスではその場面における目的や強みとなる視点が異なります. 併用利用は単発利用に比べてより細かな生活上の問題点や課題にも気づきやすく、複数パターンの解決策を模索できるメリットもあります.

単発利用

- 通所単発の視点

通所

サービス利用時の
の様子

- サービス利用時の様子. 環境も手段も自宅とは異なる

自宅

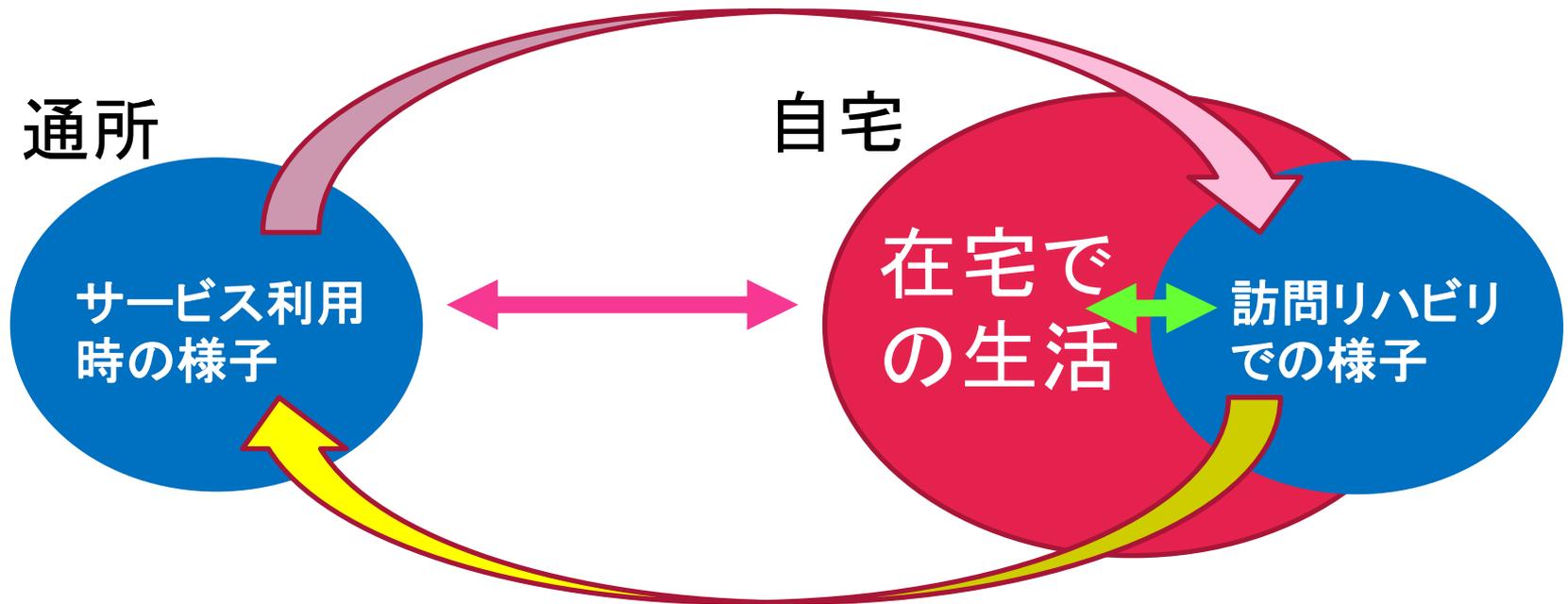
在宅での生活

- 在宅での生活がリアルタイムで見えにくい後手となりやすい



併用利用①

- 通所・訪問の併用視点

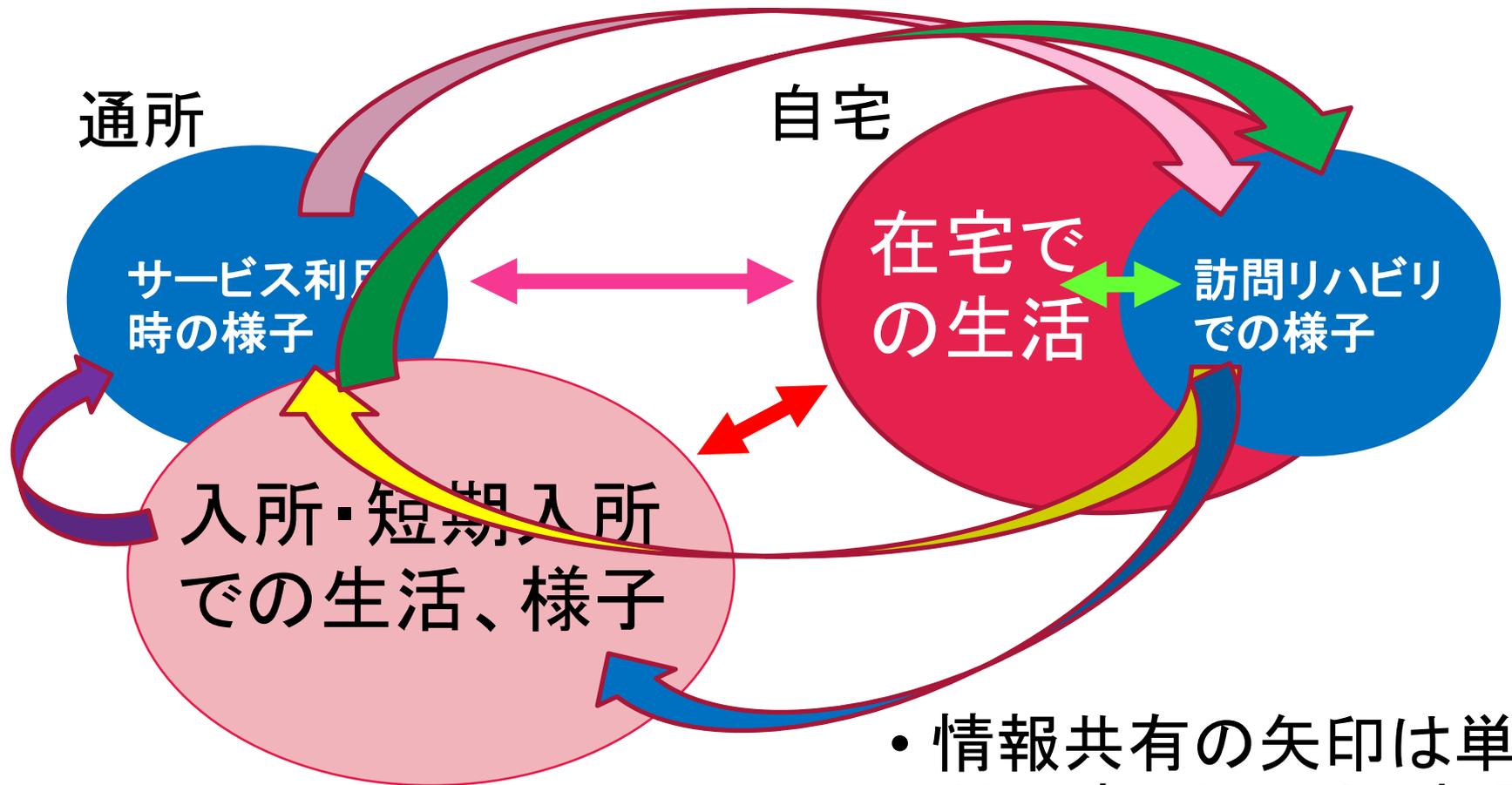


- 在宅の様子も訪問リハビリとの情報共有にて把握しやすい。自宅とは異なる環境を効率的に利用できる

- 自宅での生活の様子を見ながら実生活でのリハビリ介入と家族へのリアルタイムのアドバイスが可能

併用利用②

- 通所・訪問・入所(短期入所)の併用視点



- 情報共有の矢印は単発利用時に比べより相互に影響し合う

同じリハビリテーションでも場面が
異なれば利点も異なる

- サービス併用をリハビリテーションの視点で繋ぐことで、従来のレスパイト機能のみならず、フレキシブルに老健機能を活用できる。利用者・家族にとっても有効なことが多い。

これらをイメージして

- ・サービスの併用利用についてのメリットやプラスのイメージを持っていただき、事例紹介を新たな視点で聞いていただけたら幸いです。
- ・普段皆様が支援されている方の中にも該当する方がいるかもしれません。該当するか分からなくても遠慮なくご相談ください。

ご清聴ありがとうございました

何かあれば遠慮なくご連絡ください。

介護老人保健施設カトレア

リハビリテーション室 石井 雄大

042-589-2250